

「3選」に自信たっぷりの安倍首相を脅かす

「不信感」と言う名の 獅子身中の虫

政治ジャーナリスト 鈴木哲夫

「忖度」よりも不誠実が仇に

「通常国会中盤から総選挙前まで長い苦渋の半年だった」――。

安倍首相を支える議員の1人は、去年1年間をこう振り返った。

2017年は、俗に「モリカケ」と言われた森友学園の国有地払い下げや加計学園の認可問題、安倍首相の昭恵夫人の関わり、相次いだ閣僚の失言や政治家のスキヤンダル、大義のよく分からぬ総選挙、野党の分裂……。答弁も「のらりくらり」なら、野党も追及し切れないもどかしさ。選挙を終えても体制は変わらず、将来不安を解決するための長期的な「人づくり革命」の大部などは年越し……。

1年間を通じて、そこには確かに政局直結の興味本位の面白さはあったが、政策的に見て、また与野党のあり方なども、しつかりとした政治遺産はほとんどなかったと言えるのではないか。

自民党のあるベテラン議員は「2

017年は不毛な1年だった」と語ったが同感である。

政治活劇の主役たちはたくさんいた。その筆頭が、冒頭のように苦渋を嫌というほど味わった安倍首相だ。

モリカケで夏のマスコミ各社の世論調査で内閣支持率は、ついに不支持が支持を上回った。森友問題では籠池泰典前理事長夫妻、加計問題では前川喜平前文科事務次官らも参戦。

世論はもちろん、安倍首相自身の答弁や、他の政府関係者や安倍首相側近らも肝心なところで「記憶がない」「資料がない」と突っぱね、世論の怒りを買ったという形だ。

冒頭議員はこう続ける。

「この問題の本質は、総理が指示したとか忖度があつたのかといった事実よりも、不誠実さが仇になつたということ。総理は説明して無実を訴え、それでもだめで謝つたが、やるべきは政府関係者を参考人などで国会に出席させ説明させることだつ

た」

こうした中、今年2018年、安倍首相にとって最大の政治課題はどういうと……。

「9月に行なわれる自民党総裁選

に3選を果たして、もう後3年首相の座に就いて長期政権を実現することです」(首相側近)

自民党は昨年党の規約を改定し、それまで2期6年までとしていた総裁の連続任期を、3期9年までに延長した。



「モリカケ」での安倍首相の不誠実さが仇に

自民党は政権政党であるから、言うまでもなく自民党の総裁は同時に首相。

つまり、安倍首相は「最大9年間の首相の座」を懸けて総裁選に挑むことになる。この改定は、安倍首相を支える「階俊博幹事らが率先して行なった。

「9月の総裁選に勝てば、2021年まで首相ということになる。その間に東京オリンピックはあるし、それだけ時間があれば、念願の憲法改正も手をつけられるなど歴史に名を残す首相となる。何としてもここで勝つためには、来年は9月まで安全運転。無理はせず、世論を

意識しながらやつて行くことになるだろう」（前出側近）

世論調査から滲む「危うさ」

普通に考えれば安倍首相の3選の可能性は高いはずだ。

なぜなら、10月に行なわれた総選挙では自民党は280議席を超える圧勝。これを率いたリーダーが安倍首相なのだから文句のつけようはない。

また、選挙後のマスコミの世論調査による内閣支持率も不支持を上回っている。

ところが、この調査をよくよく見ると、決して安泰ではないという現

実が、深層にしっかりと横たわっていることが分かる。

安倍首相に距離を置く自民党議員はこう解説した。

「選挙前に、モリカケで内閣支持率は下がり不支持が支持を上回った。

さらに安倍首相の人柄が信頼できないと厳しい世論になつた。選挙で大勝して、確かに支持率は回復したが、一方で総裁選での3選について世論調査では、11月のFNN世論調査や12月のJNN世論調査など、いずれも『安倍首相以外』という人が半数を超えている。つまり、あの夏に失つた安倍首相への信頼といふのは底辺では回復していないといふことだ」

また、時事通信が行なつた世論調査もこれに追い打ちをかけている。

内閣支持率そのものが2カ月ぶりに減少に転じ、その背景には、12月に閉幕した特別国会でモリカケ問題を巡り、安倍首相が行なつた国会答弁などが影響した、と時事通信は分析している。

さらに、内閣を支持するという人でさえその理由のトップは、「安倍首相だから……」ではなく、「他に適当な人がいないから」で18・8%。

一方、支持しない理由のトップも、「首相を信頼できない」が21・0%。つまり、安倍首相である必然性を、国民はあまり感じていないというこ

となのだ。

「総裁選は国民全員に投票権があるわけではなく、全国の自民党員や自民党議員だけで投票するわけだが、実は党員票は世論に近い動きをする。安倍首相は元々地方票には弱く、前々回の総裁選では石破茂前地方創生相に完全に敗れたほど。3選は安倍首相でなくていいという今の世論が続く限り、何か

スキンシップなど火種があれば安倍首相にとって総裁選での大逆風になるはずはない。

「石破語録」から見える本気度

今のことろ、総裁選の対抗馬は石破茂元地方創生相だろう。

総選挙に圧勝した安倍首相に対し、党内では本来だれも文句など言え

し、苦言の数も増えて來ているのが石破氏には悔しさがある。政権復帰直前の総裁選に出馬したが、地



3選に向けてやる気満々の安倍首相だが……（首相官邸）

49 ●月刊公論 2018. 2

(外務省)



岸田氏は3選目論む安倍氏を支持か

いろいろな意見があるのが当たり前。ない方がおかしい。どれを選ぼうかというのは、自民党の主権者たる党員の権利だ。

この権利を我々が阻害することはやつてはいけないことだ。（安倍晋三首相が無投票再選だつた）2年前にそういう権利行使できなかつたわけだから、来年は党員の権利行使させないと政党の名に値しない。私であれ、岸田（文雄）さんであれ、野田（聖子）さんであれ、誰であれ、自由民主党の総裁に立候補できる国会議員20人以上の推薦人を集められる人は、自分の意見をきちんと出して、党员を選んでもらう》（東京・渋谷でのシンポジウムで）

その中身は、「地方創生」だ。石破氏は、自らの側近など周囲にこう話している。

「オリンピックという祭りは終わる。そんな中で地方には経済活動やサービス業など伸びしろと潜在力がある。いつの時代も、国を変えるのは地方。（安倍首相の）大胆な金融緩和や機動的な財政出動なんて、いつまでもどこまでも続くはずはない。このまま行つて日本は潰れるのか。地方創生大臣をやって、ああ自分はこんなに日本のことを知らなかつたのかと痛感させられた。地方のボテンシャルを最大限に引き出すのが次の時代の政治の使命」

石破氏は、地方に軸足を置いている。今も、多い時で週に4日は地方行脚を続けている石破氏。講演の

いろいろな意見があるのが当たり前。ない方がおかしい。どれを選ぼうかというのは、自民党の主権者たる党員の権利だ。

この権利を我々が阻害することはやつてはいけないことだ。（安倍晋三首相が無投票再選だつた）2年前にそういう権利行使できなかつたわけだから、来年は党員の権利行使させないと政党の名に値しない。私であれ、岸田（文雄）さんであれ、野田（聖子）さんであれ、誰であれ、自由民主党の総裁に立候補できる国会議員20人以上の推薦人を集められる人は、自分の意見をきちんと出して、党员を選んでもらう》（東京・渋谷でのシンポジウムで）

こうして見ると、一連の発言は明らかに安倍首相の政権運営や政策に一線を画し、次期総裁選へ出馬するという意思と見てとれる。

石破氏は、総裁選に出るための政権構想について、「来年（2018年）の6月ぐらいになる」と周囲に漏らしている。

その中身は、「地方創生」だ。石破氏は、自らの側近など周囲にこう話している。

「オリンピックという祭りは終わる。そんな中で地方には経済活動やサービス業など伸びしろと潜在力がある。いつの時代も、国を変えるのは地方。（安倍首相の）大胆な金融緩和や機動的な財政出動なんて、いつまでもどこまでも続くはずはない。このまま行つて日本は潰れるのか。地方創生大臣をやって、ああ自分はこんなに日本のことを知らなかつたのかと痛感させられた。地方のボテンシャルを最大限に引き出すのが次の時代の政治の使命」

石破氏は、総裁選に出るための政権構想について、「来年（2018年）の6月ぐらいになる」と周囲に漏らしている。

「地方重視」と「憲譲狙い」

要請などはひつきりなしで、石破氏の地方人気は高い。

「総裁選で地方党員の票が石破氏を支持すれば、彼らに日頃から支えられているその選挙区の国会議員だつて、安倍さんというわけには行かない」（前出側近）

地方行脚は総裁選での地方票の獲得となる作戦にもつながる。安倍首相に挑む筆頭は石破氏であろう。

一方、岸田氏は、12月に「外交政策研究会」と、2050年の社会にどんな政策が必要かを議論する「未来戦略研究会」を発足させた。

「未だ公約づくりの場ではないか」という見方もある。ただ、総裁選に出るのかどうかについては定まらない。

安倍首相側近が総裁選の見通しについてこう話す。

「石破氏以外は憲譲狙いと見ていい。安倍首相が改造前にそれぞれ個別に話してうまく取り込んだ。たとえば岸田氏。もともと上に仕えて譲つてもらうタイプ。夏の内閣改造の時に安倍首相と2人でじっくり話したようだが、次の総裁選までは岸田

氏が安倍首相を支え3選を支持する。しかし、安倍首相もいつ何があるか分からぬから、その時は岸田氏に憲譲するという話になつたのでないか。岸田氏が石破氏のように政権批判せずに、是々非々で慎重に発言しているのはその証拠だろう。

出馬の意思をこれまで示して來ている野田聖子総務相についても、総裁選に出るような雰囲気を見せているが、そもそも20人の推薦人が集まるのかどうか。「出ると言い続ける」とか言っているが20人は厳しい。野田氏も、改造前に安倍首相としっかり話をしているという見方もある。

彼らは戦うより、協力関係の中で憲譲狙いの方が首相への現実味が出てくるという判断だろう。

こうして見ると、総裁選は実質「安倍vs石破」の構図が見えて来る。

そもそもライバルがいて安倍首相も成長する。弛緩した政治も引き締まる。そのためにも、石破氏の出馬は「政治家としての責任」とは言えまい。

2018年の幕開け。安倍首相にとつて3選を睨んだ政権運営が続くが、それは不安を内包しながらのもとなるだろう。

安倍首相側近が総裁選の見通しについてこう話す。

「石破氏以外は憲譲狙いと見ていい。安倍首相が改造前にそれぞれ個別に話してうまく取り込んだ。たとえば岸田氏。もともと上に仕えて譲つてもらうタイプ。夏の内閣改造の時に安倍首相と2人でじっくり話したようだが、次の総裁選までは岸田

氏が安倍首相を支え3選を支持する。しかし、安倍首相もいつ何があるか分からぬから、その時は岸田氏に憲譲するという話になつたのでないか。岸田氏が石破氏のように政権批判せずに、是々非々で慎重に発言しているのはその証拠だろう。

出馬の意思をこれまで示して來いている野田聖子総務相についても、総裁選に出るような雰囲気を見せているが、そもそも20人の推薦人が集まるのかどうか。「出ると言い続ける」とか言っているが20人は厳しい。野田氏も、改造前に安倍首相としっかり話をしているという見方もある。

彼らは戦うより、協力関係の中で憲譲狙いの方が首相への現実味が出てくるという判断だろう。

こうして見ると、総裁選は実質「安倍vs石破」の構図が見えて来る。

そもそもライバルがいて安倍首相も成長する。弛緩した政治も引き締まる。そのためにも、石破氏の出馬は「政治家としての責任」とは言えまい。

2018年の幕開け。安倍首相にとつて3選を睨んだ政権運営が続くが、それは不安を内包しながらのもとなるだろう。